


AADC-0038 (Breast) ドセタキセル単独点滴 療法

■スケジュール 3週で1サイクル 22日目が次のクール day1

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
注																						

備考：当院採用のドセタキセル（DTX）はアルコールフリーです。

■副作用情報（J Clin Oncol. 1999 Aug;17(8):2341-54）

発熱性好中球減少症	5.7%	悪心(Grade≥3)	3.1%
好中球減少(Grade≥3)	93.5%	嘔吐(Grade≥3)	3.1%
血小板減少(Grade≥3)	1.3%	下痢(Grade≥3)	10.7%
貧血(Grade≥3)	4.4%	脱毛(All Grade)	91.2%
感染(Grade≥3)	2.5%	無力症(Grade≥3)	14.5%

■支持療法：抗がん剤治療による有害事象に対応する **基本的な処方** です。

患者さまの常用薬、状態に応じて変更する場合がございますので、ご承知おきください。

点滴 翌日から 飲むお薬 点滴当日は 静注でステロイド 投与しています	デカドロン錠(4) 1日2回 朝と昼 食後 1回 1錠	浮腫予防 のため服用します。 点滴翌日から 2日間 飲みます。 昼に飲む理由は、 16時以降に飲むと不眠になる可能性があるからです。
	ファモチジン OD (20) 1日2回 朝と夕食後 1回 1錠	デカドロン錠による胃腸障害を予防すると 抗がん剤によるムカムカ症状を緩和します。 点滴翌日から 2日間 飲みます。

■服薬指導のポイント

- 最も注意すべきは、骨髄抑制である。特に好中球減少は、他の抗がん剤と比べて比較的早期におこる。ドセタキセル点滴後 1 週間経過したあたりが一番抵抗力が落ちている時期。
 この時期に **37.5℃以上の発熱が1時間以上続く上、下痢口内炎を併発する場合は重篤。直ちに病院を受診する必要がある。**
- **下痢**：下痢は脱水を招くおそれがある。下痢により水分だけでなく電解質も喪失するので、**電解質含有の水分を摂る** よう伝える。
 下痢をした場合の具体的なアドバイスとしては
 下痢により体に必要な電解質もでていってしまい、例えば低カリウムを起こすことがある。
 電解質を含んだ飲料水を排泄のたびコップ1杯以上とり、水だけお茶だけといった水分の摂り方はしない。
 カリウムの多い食品としてはバナナなどがある。食事の一回量を減らし、回数を増やす。
 食事の1回量が多いほど、胃結腸反射が起き下痢を誘発しやすいので、回数を多く取る方法に切り替える。
 下痢時、避けたほうがよい食品としては、カフェイン、アルコール、炭酸飲料、ナッツ類（ナッツは非常に油分を多く含んでいる。多すぎる油分が腸に入ると、水分と油分が分離してしまい下痢を誘発する）、全粒粉食品、ふすま製品、揚げ物を含む高脂肪食品などは、消化器系に刺激を与える可能性があるため、摂取を控える。
 食事の温度も重要。非常に熱かったり、また冷たかったりする食べ物は、下痢の要因となる。
- **口内炎**：内炎には薬の粘膜に対する直接的な障害と、薬による骨髄機能の抑制（骨髄抑制）に伴う局所感染によって生じる二次性障害の2つがある。骨髄の機能が低下時に口内炎が重なると、口内炎によって傷ができたところに細菌などが侵入して感染しやすくなるため注意が必要。相澤病院院内製剤のレバミピド含嗽水を使用している患者さんもいるかもしれません。（病院で口内炎用のうがい薬をだしてもらっているという場合は「茶色の瓶に入ったものですか？それなら使うたび、良く振ってご使用ください」とお伝え下さい）

- **脱毛**：髪の毛だけではなく全身の体毛において起きる可能性がある。
点滴開始2～3週間後に発現する方が多い。治療が終わると1～2ヶ月で再生がはじまり3～6ヶ月で、ほとんど回復するが、髪質が変化することもある。脱毛が落ち着くまではケア帽子やバンダナを利用し、脱毛の程度をみてカツラを検討する。

- **皮膚障害**

全身に痒みを伴うような発疹が起きた場合は、迷わず病院に相談するよう伝える。
色素沈着で肌が黒っぽくなる方がいます。

直射日光によりそれが更に強くでることが予測されるので、
日焼け防止対策をお伝えする。

シミが増えた、肌があれるといった相談があるかもしれません。

当院では、ドセタキセルによる手足症候群（末梢神経障害）予防のため凍らせた
ペットボトルをお持ちいただき、点滴中使用していただくことをお勧めしている。

（女性は比較的このアドバイスを受け入れ点滴中 冷やしている方が多い）
保湿を促していただくことも有用。



- **爪の変化**：本治療に用いるドセタキセルは、爪障害を起こしやすい薬剤である。
手の爪は、指先を保護する、物をつかみやすくする、指を支え微妙な感覚をコントロールする、
足の爪には体重を支えるなど大事な役割を担っている。
治療による爪の変化として患者さんから爪に横線が入る、爪が変色する、爪が弱くなった など訴えがあるので、
爪の変化について質問してみるとよい。

アドバイスとしては、爪用のマッサージオイル（ネイルキューティクルオイルなど）を利用して爪の成長を
促したり、日常の爪保としてマニキュアを用いて爪の凹凸、ひび割れなどに対応する。

ただし、爪囲炎の場合はマニキュア塗布が爪囲炎悪化に繋がることもあるので、爪の周りの様子も観察する
よう伝える。

- **浮腫**：浮腫がなくても2日間の支持療法薬は、きちんと服用するよう伝える。

ドセタキセル投与によって体液貯留に伴う浮腫が起きる可能性がある。

浮腫が起きる背景として毛細血管漏出症候群によるものとされ

浮腫が出てしまった場合は、利尿剤などの対処がとられる。

この治療を継続している方に、利尿剤が追加と

なった場合は浮腫の可能性はある。足の浮腫の場合は

寝るときクッションなど用い足を少し高くして休むと

浮腫が和らぐことがあるとされる。

浮腫を確認するには、まぶたが重くないか、靴や靴下がきつくないか、体重がいきなり増えてないか など
本治療の場合（DTX75mg/m²回）5回目施行ぐらいから、

浮腫の症状がひどくなる可能性がある。（DTX 累積投与量 350～400 m²到達）



- 本治療は、軽度催吐性リスクに分類される。

食欲がないときのアドバイスとしては、無理せず食べられるものを探し、食事はゆっくりと時間をかけたり、
少量ずつ可能な範囲で食べる。揚げ物・煮物・煮魚や焼き魚などは避けることで、嘔気を軽減することもある。
料理は冷やしたり、冷まして食べることで、あたたかいものより、においが軽減し食べやすくなることもある。

- **関節痛、筋肉痛**：頻度は高くないが、関節痛・筋肉痛を訴える場合がある。

ドセタキセル点滴投与後、2～3日後に出現し数日持続する。患者さんは次の受診の頃は症状を忘れてたりする。

必要に応じてNSAIDs 処方なども可能なので、点滴後、数日間の痛みがないか確認するようにし

痛みがあった場合は 次回受診時に どんな痛みがどの程度あったのか医師に伝えるよう指導する。